

かながわ高齢者保健福祉計画評価・推進等委員会 介護予防市町村支援委員会  
介護予防事業専門部会開催概要

|       |  |
|-------|--|
| 開催日時  | 令和4年12月21日(水) 18:00~19:00  |
| 開催場所  | オンライン開催  |
| 出席者   | 医療分野 4名<br>市町村 2名<br>保健福祉事務所等 3名<br>学識経験者 5名 計 14名   |
| 会議の概要 | <p><b>○概要</b></p> <p><b>(1) 介護予防事業ワーキング報告</b><br/>令和4年6月に実施した、介護予防事業ワーキングの結果を報告(報告概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県が市町村支援のため、地域の専門職等を対象に実施する「市町村介護予防事業支援のための人材育成事業」研修(県理学療法士会に委託)の内容、方法、対象者について、ワーキングの場で意見をいただき、それを踏まえて、県と理学療法士会とで調整しながら実施することとなった。</li> <li>・その他、高齢福祉課で市町村支援のために実施している「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における通いの場への伴走支援事業」の令和3年度、令和4年度の予定について、「地域包括ケア推進事業における専門職員等派遣事業」の令和4年度の申込状況について報告した。</li> </ul> <p><b>(2) 令和4年度県による市町村の介護予防事業支援について</b></p> <p>ア 市町村介護予防事業支援のための人材育成事業(初級・中級)の内容、実施状況について報告(報告概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初級研修:オンライン研修<br/>「再考:健康長寿と幸福長寿 老いることの意味を問い直す」<br/>令和4年10月15日(土)<br/>講師:東京大学 飯島勝矢氏<br/>申込者:122名 当日受講者:78名<br/>オンデマンド配信実施</li> <li>・中級研修:オンライン研修<br/>「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施と地域ケア会議の実践例」<br/>令和4年12月10日(土)<br/>講師:保健福祉大学 田中和美氏、小田原市職員、委託事業者<br/>申込者:121名 参加者:84名<br/>小田原市の通いの場及び地域ケア会議についてシンポジウム方式で開催<br/>オンデマンド配信実施</li> </ul> <p>イ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における通いの場への伴走支援事業の令和4年度の実施状況について、支援の進捗状況、内容を報告(報告概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度は、保健福祉大学 田中和美教授をメインアドバイザーとして、相模原市、海老名市、厚木市に対して支援を実施。理学療法士会、作業療法士会のアドバイザー、後期高齢者医療広域連合、所管の保健福祉事務所も同席、県高齢福祉課職員がその場のしきりやまとめを実施</li> <li>・支援先の取組状況に応じ、マンパワー不足の問題解決のため、既存事業の</li> </ul> |

活用や優先順位を考え多職種を活用すること、事業の評価方法やデータの見せ方の工夫、一体的実施を実施するための各所管課の事業の整理・データの見える化の必要性等の助言を実施

ウ 地域包括ケア推進事業における専門職員等派遣事業の派遣状況について職種別、市町村別の派遣件数を報告

(報告概要)

- ・市町村の希望に応じて、地域ケア会議や地域ケア個別会議に専門職員等を、事業運営に関して学識経験者等の派遣を実施
- ・職種で延べ人数が多いのは理学療法士、そのほか弁護士や自治会長等市町村の課題に応じた多彩な専門家のニーズがある。
- ・市町村の課題も、認知症や精神疾患・防災・BCP・ACP等、より専門的、複雑になっている。

### (3) 県内市町村の介護予防事業の状況について (横浜市、南足柄市)

部会委員の横浜市、南足柄市から、介護予防事業の取組状況について報告

(報告概要)

- ・横浜市から、コロナ禍で中止していた「元気づくりステーション」の取組再開にあたり、区役所の保健師や地域包括支援センターの看護職の支援が再開につながった状況、オンライン上の通いの場、オンライン上で交流する実証実験の予定、医療専門職向けフレイル予防の講演会について報告
- ・南足柄市から、通いの場で体操をボランティアで教える介護予防サポーターの養成状況、コロナ禍でも工夫をして健康づくりに取り組む状況、通いの場に専門職を派遣したフレイル予防の取組について報告

### (4) 主な質疑、意見交換等

- ・横浜市のオンライン通いの場の実証実験に関連して、高齢者のスマホ等への抵抗感はないのか。

(回答) 案外高齢者は、スマホの所持率や利用することへの関心度が高い。実験でどれくらい実用性があるのか調べていきたい。

- ・南足柄市のフレイルチェックの方法について

(回答) 指輪つかテストを使っている。

- ・引きこもりなど、様々な課題をもつため、通いの場に現状では参加できないような高齢者の方々を、今後どのようにして通いの場につなげるか、行政は具体的に方法をイメージできているのか。

(回答) 民生委員に介護予防の必要性、問題なく暮らしているように見えても介護予防の必要がある人がいることを伝え、個々の高齢者が、どういう繋がりだったら持ってもいいと思っているのかというのを見極めながら、必要な支援や関係性に繋いでいく方法をとっている。

(回答) 男性の参加者が少ないため、男性が来やすい通いの場について検討中。まずは検診の場などを利用し、通いの場を知ってもらう取組をしている。

- ・民生委員やボランティア、医療職などが連携し、誰 1 人取り残さない社会をつくるため市町村の取組の工夫が必要。
- ・市町村の取組で好事例があるのであれば、横展開が必要。
- ・取り残される人が出ないよう、オンライン通いの場の実証実験参加者の特性(もともと経済状態が良い、ソーシャルネットワークがあるなど)についても把握しておくべき。